

## 性的マイノリティ/LGBT について

### 1. はじめに

人権問題に関心があり、1年生のときの家庭科の授業や、リバティ大阪への見学でLGBTについて興味を持った。

また、研究を進めていくうちに小中学校での教育が十分になされていないと思ったので調べることにした。

### 2. 研究内容

10月 支援団体への訪問、当事者の方へのインタビュー

11月 大阪府立学校人権教育研究会性差別撤廃教育チームの教職員との交流

12月 生徒に意識調査

LGBTについて学校で学習したことがあるか

当事者の人に出会ったことがあるか

カミングアウトについて

差別用語について など

1月 当事者の方へのインタビュー

### 3. アンケート結果

・LGBTについて小学校で学習したことがあるか	18.2%
中学校で学習したことがあるか	65.7%
高校で学習したことがあるか	90.5%

- ・どんな時にどんなことを聞いたことがあるか
  - ・いじるときに差別用語を使う
  - ・同性が好きとか気持ち悪い、と言っていた
  - ・レズかよ、とからかう感じ
  - ・友達同士のノリでふざけて、おまえホモかよ、という感じ
- ・友達にLGBTをカミングアウトされたらどうする？
  - ・最初は心の中で驚くと思うけど、これまでと変わりなく接すると思う
  - ・基本的な接し方は変わらないが、少し自分の言動に気を付ける
  - ・距離を置くかもしれない
  - ・素直に受け止めるが、その後普通に話せるかどうかはわからない

#### 4. 結果・考察

LGBTの人への偏見を少しでも減らすためには、学校での正しい教育が必要だと考える。しかし、アンケート結果から、小中学校での教育が不十分である。LGBTの人が傷つくような発言を平気でしたり、LGBTについて先入観を持っていたりする人も少なくないと感じた。当事者の方々に、学校教育になにが必要か、自分が学生するときどういう授業をしてほしかったか尋ねた。日本と違って外国では、もっとオープンに性教育がされているそうだ。日本でも小さいときからフラットに性教育ができれば先入観も無くなっていくと思う。全く関係ない授業でおもしろおかしく取り扱ったり、中途半端な授業をすると偏見が生まれてしまうのでやめてほしいとおっしゃっていたので、まずは教える側の教員が正しい知識を身につけることが必要ではないだろうか。学校でLGBTを人権問題のいろんな問題の中のひとつとして学習し、人それぞれの違いを認め合うということが差別や偏見を無くすことにつながる。当事者だけでなく、みんなの問題として身近に扱うことも必要だとおっしゃっていた。

学校で起こる出来事ではじめも多く、LGBTの子供たちにとって、一日の大半を過ごす学校が安心できる場所ではなく常に恐怖を感じる場所になってしまっている場合もある。その結果、自分のセクシュアリティを自分で認められないことが多く、自己肯定感が下がってしまうため、自殺未遂率や自傷行為経験割合などが高くなる。

他人と自分は違うとわかることも大切である。同じところも違うところもあるのが人間であり、違うからといって否定的なことや傷つけるようなことはしなくてよい。自分ではない誰かを理解するのは難しいことだ。LGBTのことを知って、受け入れる、そういうのもあるんだと思うことなら誰でもできると思う。

自分の一部を否定する生き方はしんどい。今回インタビューした方々も、生きづらさはあるそうだが、周りの人が自分のことを肯定してくれることで自信が持てるし、手術したり戸籍を変えたりしなくても自分らしく生きることはできるともおっしゃっていた。

LGBTの人は、目に見える障がいなどと比べてないことにされがちだが、当たり前にいる。自分のすぐ近くにいるかもしれないということを忘れないでほしい。

#### 5. 参考文献

- リーフレット「個別施策層のインターネットによるモニタリング調査と教育・検査・臨床現場における予防・支援に関する研究」 日高庸晴
- リーフレット「子どもの命と安全を守る人権教育」調査・研究  
大阪府教育センター
- リーフレット「LGBT 便利帳」 QWRC
- LGBTを学ぶためのDVD教材(新設Cチーム企画)
- DVD「もしも友達がLGBTだったら？」